

記載例

化学肥料低減実施報告書

申請時点と同様の記載をお願いします。申請時提出の化学肥料低減計画書ごとにこの実施報告書を作成してください。年度別、秋肥、春肥別に作成してください。

作付概要

作物名	作付面積(ha)
水稲	10.0
その他	
計	10.0

氏名(法人・組織名) 岡山 太郎

住所 岡山市〇〇〇〇-〇〇

電話番号 △△△-△△△-△△△△

1. 実施する(してきた)取組メニューに「○」を付してください。
2. 「今後の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	令和4年度又は令和5年度の取組	今後の取組
ア 土壌診断による施肥設計	○	◎
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用	○	○
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用	○	○
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	<p>国事業のみの申請の場合は「○」が2つ、国+県事業の申請の場合は、「○」が3つ必要です。</p>	<p>国事業のみ、国+県事業の両方を申請している方、どちらも「○」を2つ以上記載し、1つ以上は、「◎」をつけてください。</p>
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等を含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用	<p>取組メニューが申請時から変更した場合は、「化学肥料低減計画書変更届出書」に変更後の「化学肥料低減計画書」を添付して提出してください。</p>	
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用()		
タ 有機農産物、特別栽培農産物の生産に取り組んでいる、環境保全型農業直接支払交付金の交付を受けている等、全作付面積の半分以上を占める作物又はこれに準ずる作物群のうちの2品目以上で化学肥料の3割低減を大幅に超える取り組みが行われていることを証明できる。	<p>別紙の「化学肥料低減実施報告書の総取組面積の算定イメージ」を確認して、面積を記載してください。</p>	
総取組面積	8.0ha	10.0ha